

地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和4年度の業務実績に関する評価結果（案）

第1項 全体評価

1 評価結果

北九州市立病院機構における令和4年度の業務実績の全体評価は、「**中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる**」とする。

2 評価理由

第1期中期計画期間の4年目である令和4年度の業務実績の大項目評価について、第1、第2、第4は「評価A」、第3は「評価B」、となった。

令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の影響は引き続き大きかったため、第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても積極的かつ機動的に対応するとともに、各病院の特色を生かし、高度で専門的な質の高い医療を提供した。

また、理事長を中心に地方独立行政法人制度の特長を活かした取り組みにより、業務運営の改善や効率化などで成果が上がっている。

このため、令和4年度の業務実績は「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価した。

なお、財務内容について、営業収支、経常収支及び単年度資金収支が3年連続黒字となったが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度に依るところが大きいと、補助制度の廃止を見据えて、引き続き、経営健全化を進めるとともに、長期収支の均衡を図っていく必要がある。

3 大項目別の評価結果一覧

大項目	評価項目数	小項目評価数					平均	大項目評価
		評価5	評価4	評価3	評価2	評価1		
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	12	1	4	7	0	0	3.5	A
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	8	0	4	4	0	0	3.5	A
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	4	0	0	4	0	0	3.0	B
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	3	1	0	2	0	0	3.7	A
合計	27	2	8	17	0	0	-	-

【大項目評価】

評価S：評価Aを満たした上で、特筆すべき進捗が認められる（市長が特に認める場合）
 評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる（小項目評価結果の2以下が無く、平均が3.5以上）
 評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる（小項目評価結果の2以下の項目評価数が2以下で、小項目評価結果の平均が3以上）
 評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている（小項目評価結果の平均が3未満）
 評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある（市長が特に認める場合）

【小項目評価】

評価5：年度計画を大幅に上回って実施している。
 評価4：年度計画を上回って実施している。
 評価3：年度計画を順調に実施している。
 評価2：年度計画を十分に実施できていない。
 評価1：年度計画を大幅に下回っている。

第2項 項目別評価（評価理由）

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

感染症医療において、新型コロナウイルス感染症に対し、医療センター、八幡病院ともに積極的かつ機動的に対応し、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として前年度より拡大して病床を確保、手術や分娩などを含め、適切な医療提供を行った。ワクチンの集団接種への医療スタッフ派遣をはじめ、市内での大規模大会や国際会議等でコロナ陽性者が発生した場合の受入体制を整備するなど柔軟に対応し、市内医療機関の新型コロナウイルス対策において中心的な役割を担った。

救急医療において、八幡病院では、循環器内科医3名増員のほか救急科医師1名を増員し、救急医療体制を強化している。市内他病院の救急受入停止時には、救急不応需の受け皿として積極的に対応するなど、地域における救急医療の中核施設としての役割を果たした。

医療の充実において、医療センターでは、地域がん診療連携拠点病院として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や放射線治療機器「リニアック」など高度医療機器の活用により患者数は増加。「ダヴィンチ」の適応手術拡大やチーム医療の推進など、多様化・複雑化する医療需要に対応し、高度で専門的な質の高い医療を提供した。

医療の質の確保のため、両病院とも人材の確保や育成に向けた取り組みを進めるとともに、クリニカルパス件数・適用率の向上、チーム医療の推進や医療安全対策、治験・臨床研究の推進など、年度計画に基づいた取り組みを着実に進めた。市民・地域医療機関からの信頼確保については、医療センターで紹介率が向上するなど連携が進んでいる。

以上のことから、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

幹部職員で構成する「経営本部会議」を毎月開催し、病院経営状況の管理体制を強化、毎月の目標管理と要因分析など経営課題に迅速に対応するための取り組みが推進されている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、病床利用率は伸びていないものの、適切な診療報酬確保への取り組みとして、施設基準の積極的な取得による診療報酬加算の増収は両病院合計で前年度比3.5億円と大きな成果が上がっている。ほかにも、契約制度や業務委託の見直し、医療機器の有効活用など経費節減・抑制対策に積極的に取り組んだ。

このため、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

各種経営改善を実施し、営業収支及び経常収支の黒字化、単年度資金収支の黒字化、年度末資金剰余の増加を達成できたが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度に依るところが大きい。

国や県の補助制度の廃止を見据えて、引き続き、経営健全化を進めるとともに、長期収支の均衡を図っていく必要がある。

このため、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

看護専門学校において、卒業生の市内就職率が90%以上と高い水準を維持しており、地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ、効率的な運営を行っている。

新型コロナウイルス感染症対策では、市からの要請に基づき、市との連携の下、積極的な対応を行い、市内医療機関の中心的役割を担ったことから「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。

地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和4年度の業務実績に関する評価結果(案)

項目	令和4年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項				
1 政策医療の着実な実施				
(1) 感染症医療	<ul style="list-style-type: none"> ●第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても、県の重点医療機関として積極的に入院患者の受け入れを実施し、市内医療機関の新型コロナウイルス対策の中核的な役割を担った。 ●福岡県・北九州市からの要請に応じて、コロナ病床の拡大、スポーツの大規模大会や国際会議等でコロナ陽性者が発生した場合の受入体制整備、ワクチン接種等に対応。 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス確保病床 医療センター:最大32床(前年度26床) 八幡病院:最大23床(前年度20床) ●新型コロナ患者の長期入院等に適切に対応するため、各病棟からの看護師等の応援体制を構築し、適切に運用。 ●新型コロナに対応できる職員の育成のため院内研修及び訓練を継続的に実施。 	5	5	<p>○新型コロナウイルス感染症に対し、第二種感染症指定医療機関である医療センターに加えて、八幡病院においても積極的かつ機動的に対応し、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として前年度より拡大して病床を確保し患者を受け入れたほか、新型コロナウイルス感染症患者の手術や分娩、ワクチンの集団接種会場への医療スタッフ派遣を行った。</p> <p>○市内で開催されたスポーツの大規模大会や国際会議等における感染時の受け入れ体制を構築するなど、柔軟な対応を行った。</p> <p>○感染拡大に対応するためにハード・ソフト両面での整備を推進し、コロナウイルス感染症対策への多大な貢献を踏まえ、評価「5」とした。</p>
(2) 周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ●医療センターにおいて、周産期母子医療センターとして、他病院で受入困難な新型コロナウイルスに感染した妊婦の分娩を適切に実施。24時間体制でハイリスク妊娠や新生児に高度で専門的な医療を提供し、北九州地域における中心的な役割を担った。 ●周産期医療の適正化に向けて、関係機関との調整に取組み、地域全体の医療提供機能を踏まえた運用を行った。 ●感染状況に応じた職員の行動制限などの感染防止対策を行い、新型コロナウイルス患者の分娩を適切に実施(分娩件数18件)。 <ul style="list-style-type: none"> ・母体搬送件数59件 NICU受入患者数2,420件 	4	4	<p>○母体搬送件数は微増[R1:98件→R2:70件→R3:54件→R4:59件]、NICU受入患者数は[R1:2,476件→R2:1,958件→R3:2,031件→R4:2,420件]とコロナ禍以前と同水準まで増加。</p> <p>○他病院で受入困難な新型コロナウイルスに感染した妊婦など18件の新型コロナウイルス感染患者の分娩を実施した。周産期母子医療センターを24時間体制で運営し、高度で専門的な医療を提供しているため、評価「4」とした。</p>
(3) 小児救急を含む救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ●八幡病院において、「救命救急センター」「小児救急センター」としての役割を担った。 ●救急外来、小児科外来、小児集中治療室(PICU)、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供。 ●救急科及び関連診療科の医師確保に向けて、理事長・院長等による大学医学部等への働きかけ、医師紹介会社の情報提供活用。 ●初期研修医8名のほか、他病院の研修医を受け入れ、人材育成を通じた救急医受け入れ体制を強化。 ●近隣医療機関の新型コロナのクラスターによる救急受入停止等で救急搬送依頼が増加したことにより、応需率は昨年度と比べ低下したが、積極的な救急受入を実施し、昨年度に比べ年間約900件の救急搬入数増となった。 <ul style="list-style-type: none"> ・救急車応需率 70.1% 救急受入件数 4,334件 ・救急患者手術件数 348件 小児救急ワークイン件数 23,223人 	4	4	<p>○近隣医療機関の新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による救急受入停止等で救急搬送依頼が増加したため、昨年度より応需率は低下したが、救急患者の受け入れは増加。 <ul style="list-style-type: none"> ・救急車応需率[R1:94.0%→R2:80.6%→R3:81.7%→R4:70.1%] ・救急受入件数[R1:3,604件→R2:3,053件→R3:3,463件→R4:4,334件] ・小児救急ワークイン患者数[R1:30,402人→R2:15,769人→R3:20,326人→R4:23,223人] </p> <p>○令和4年度から循環器内科医師3名増員のほか、救急科医師1名を増員し、救急医療体制を強化していることは評価できる。市内他病院の救急不応需の受け皿としても対応するなど、地域における救急医療の中心となり、適切な医療を提供していることから評価「4」とした。</p>
(4) 災害時における医療	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時に備え、災害医療研修センターにおける人材育成に向けた取り組みを実施。 ●海上保安庁や市消防局ヘリコプターによる離陸訓練を実施、患者受け入れ等で屋上ヘリポートを適切に活用。 ●災害時の適切な対応に向けて、両病院において、各種訓練や研修等を適切に実施。 ●災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った。 ●BCP委員会において、業務継続計画(BCP)に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ。 	3	3	<p>○災害時における医療について、災害発生時に備えた研修・訓練等の取り組みを継続して進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p>

項目	令和4年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント																														
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実																																		
(1) 医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ●がんゲノム医療連携病院として、九州大学病院との連携を推進し、エキスパートパネル(治療方針決定の専門家会議)を円滑に実施。 ●手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術件数が順調に増加、令和4年度から新たに呼吸器外科でも運用開始。 ・外科65件、泌尿器科129件、産婦人科26件、呼吸器外科9件 ●一人ひとりのがん遺伝子変異に合わせた治療等を行う「がんゲノム医療」について勉強会を開催。 ●がん看護外来や緩和ケアセンターでの、支援機能充実やがん患者指導管理料等の算定件数増加。 ●薬剤師外来:専門知識と経験のある認定薬剤師による服薬指導を行うなど、安全で効果的ながん薬物療法を提供。 ●医師・看護師等によるチーム医療を充実させるため、既存チームの活動拡大のほか、新たなチームの立ち上げを行った。 令和4年度から、リンパ浮腫チーム・肥満症診療チーム、院内迅速対応チーム等を新設。 ●地域の医療機関の基本情報が掲載されたシステム「メディマップ」を令和4年度に運用開始し、逆紹介業務を効率的に実施した。 ●救急医療:順次受入体制を強化し、受入件数を増加させ、目標件数(2,000件)を達成。R4救急車受入:2,143件 <p>・がん患者数 5,255人 ・放射線治療件数 10,650件 ・化学療法件数 17,107件 ・連携ネット北九州新規登録患者数 1,047件</p>	4	4	<p>○地域がん診療連携拠点病院として、新型コロナによる受診控えの影響を受けつつも、医療センターの特色であるがん診療の高度で専門的な医療の提供・充実を進め、患者数は増加している。 ・がん患者数 [R1:4,869人→R2:4,844人→R3:5,097人→R4:5,255人]、 ・化学療法件数 [R1:15,538件→R2:16,632件→R3:17,321件→R4:17,107件]</p> <p>○緩和ケアセンターや薬剤師外来、チーム医療の充実など、がん患者や家族の支援機能を強化しているほか、がん治療に関する地域医療機関との連携強化を進めていることは評価できる。</p> <p>○救急医療について、令和3年度に救急部の開設など体制を強化し、救急受入件数が増加している。</p> <p>○以上のことから、評価「4」とした。</p>																														
(2) 八幡病院	<ul style="list-style-type: none"> ●小児の専門性の高い分野について、常勤医のほか、外部医療機関からの診療応援により、医師の確保に努めた。 ●救急外来、小児科外来、小児集中治療室(PICU)、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供。 ●小児科専門医の基幹研修施設として、他病院の小児科専門医1名、専攻医3名を受入れ、人材育成を通じた診療機能の強化に取り組んだ。 ●医師、看護師、薬剤師等で横断的に組織した消化器・肝臓病センターにおいて、ハイブリッド手術室を活用した医療を提供。 ・小児科患者数(外来) 46,142人 ・小児科患者数(入院) 20,920人 	3	3	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響により小児科患者数は減少している。外来患者数は昨年度より増加したものの、外来、入院ともに感染拡大前の水準には回復していない。 ・小児科患者数(外来) [R1:51,412人→R2:32,424人→R3:41,371人→R4:46,142人]、 ・小児科患者数(入院) [R1:37,255人→R2:21,894人→R3:25,099人→R4:20,920人]</p> <p>○医療提供体制においては、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に診療機能の充実を努め、ハイブリッド手術室の運用など、適切な医療を提供していることから、評価「3」とした。</p>																														
3 医療の質の確保																																		
(1) 人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ●全職種:職種ごとに複数回の採用試験実施。 ●医師:医師事務作業補助者の定数増員、人材の確保が困難な場合は、派遣枠を拡大して対応。 医師紹介会社23社と契約を締結し、大学医局からの派遣以外での医師の採用を進め、八幡病院で常勤救急医1名を採用。 ●看護師:看護補助者の人員確保、事務作業サポート職(病棟クランク)の定数増、認定看護師の専従配置。 ●医療技術職:柔軟な職員採用により、経験者を含めた多様な職種の人材を確保。 ●事務職員:プロパー職員の採用を進め市派遣職員を減少、新規採用職員研修や階層別研修を実施、院内教育を推進。 ●関係大学との連携強化に向けて、理事長・院長等による訪問活動を積極的に実施。 ●日本看護協会が提示するクリニカルラダーを参考に、習熟レベルに応じた研修プログラムを令和4年度から導入。 <table border="0" data-bbox="489 1438 1602 1585"> <tr> <td></td> <td>(医療センター)</td> <td>(八幡病院)</td> <td>(医療センター)</td> <td>(八幡病院)</td> </tr> <tr> <td>・看護実習受入数</td> <td>346人</td> <td>175人</td> <td>・専門医資格取得数</td> <td>214件</td> </tr> <tr> <td>・指導医資格取得件数</td> <td>124件</td> <td>52件</td> <td>・初期臨床研修医</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>・専攻医</td> <td>15人</td> <td>9人</td> <td>・専門看護師</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>・認定看護師</td> <td>22人</td> <td>17人</td> <td>・診療情報管理士数</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table>		(医療センター)	(八幡病院)	(医療センター)	(八幡病院)	・看護実習受入数	346人	175人	・専門医資格取得数	214件	・指導医資格取得件数	124件	52件	・初期臨床研修医	7人	・専攻医	15人	9人	・専門看護師	1人	・認定看護師	22人	17人	・診療情報管理士数	14人					4人	3	3	<p>○医療スタッフの確保や事務職プロパー職員の採用を進めたほか、各種研修の充実など、医療スタッフの専門性や医療技術向上への取り組みを行い、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>○令和6年4月からの医師の時間外労働規制開始など、働き方改革が要請される中、安定した医療提供体制を維持するため、医師をはじめとする医療スタッフ確保へのさらなる取り組みを期待する。</p>
	(医療センター)	(八幡病院)	(医療センター)	(八幡病院)																														
・看護実習受入数	346人	175人	・専門医資格取得数	214件																														
・指導医資格取得件数	124件	52件	・初期臨床研修医	7人																														
・専攻医	15人	9人	・専門看護師	1人																														
・認定看護師	22人	17人	・診療情報管理士数	14人																														
				4人																														

項目	令和4年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント															
(2) 医療の質の確保、向上	<ul style="list-style-type: none"> ●医師、看護師、理学療法士等の多職種が連携した「チーム医療」の推進に向けて、既存チームの活動強化のほか、新たなチームを立ち上げて活動を開始した。 ・医療センター：令和4年度にリンパ浮腫チーム・肥満症診療チーム等を新設。 ・八幡病院：令和4年度に院内迅速対応チームを新設、緩和ケアチーム設置準備。 ●クリニカルパスの将来的な目標適用率を45%に設定、パスの作成と活用について積極的に働きかけ。 ●手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術件数は、令和4年度から新たに呼吸器外科で運用開始したことなどにより、順調に増加。 ●第三者機関による病院機能評価について、医療センターでは令和4年度適切に受審、八幡病院では令和5年度受審に向け準備に着手。 ・医療チーム編成状況 認知症ケア、感染防止対策、栄養サポート、医療安全管理、呼吸ケアサポート、褥瘡(じょくそう)管理、抗菌薬適正使用、院内迅速対応、 (医療センターのみ)緩和ケア、リンパ浮腫、肥満症診療、報告書確認対策 (八幡病院のみ)排尿ケア、養育支援、早期リハ ・クリニカルパス件数 医療センター 290件 八幡病院 356件 ・クリニカルパス適用率 医療センター39.8% 八幡病院 45.6% 	4	3	<p>○チーム医療の推進や高度医療機器の運用による手術件数増加など、医療の多様化・高度化への対応を推進している。</p> <p>○クリニカルパス件数は、医療センターでは減少、八幡病院では増加、 [医療センター R1:229件→R2:226件→R3:334件→R4:290件、 八幡病院 R1:218件→R2:273件→R3:310件→R4:356件]、</p> <p>・クリニカルパス適用率は、両病院で向上 [医療センター R1:26.6%→R2:32.1%→R3:33.6%→R4:39.8%、 八幡病院 R1:20.5%→R2:30.6%→R3:39.3%→R4:45.6%] しているが、医療センターでは目標適用率45%には達していない。</p> <p>○第三者機関による病院機能評価について、医療センターで適切に受審、八幡病院においても令和5年度の病院機能評価導入に向けて準備に着手している。</p> <p>○年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。 (年度計画を上回っているとまでは言えない)</p>															
(3) 医療安全の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の医療機関や行政職員を対象に、新型コロナウイルスを含めた感染防止対策研修を実施。 ●医療安全ラウンドを月1回実施、各種研修は主にeラーニングを活用して適切に実施。 ●多職種参加のRCA分析(根本原因分析)を実施し、分析結果を防止対策に反映しマニュアルや手順を変更。 ●業務継続計画(BCP)の理解を深めるための研修や災害時安否確認システムの使用訓練による危機管理体制を強化。 ・研修等実施回数 医療センター 48回 八幡病院49回 ・インシデント・アクシデントレポート提出回数 医療センター1,384回 八幡病院1,363回 	3	3	<p>○医療事故や院内感染防止のための研修等により、安全で安心な医療を提供するための取り組みを行っている。</p> <p>○業務継続計画(BCP)の研修等により、病院機構全体の危機管理体制の強化を図っている。</p> <p>○医療安全への対応について、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>															
(4) 医療に関する調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ●医療センターの治験研究推進室の機能を令和3年度に機構本部に移管し、新たに臨床研究推進センターを立ち上げ、両病院の治験・臨床研究の情報を一元化し、各種委員会やセミナー開催により、治験等を推進。 ●治験・臨床研究の推進に向けて、施設や設備等の充実による体制整備を実施。 ・治験等実施件数 医療センター183件、八幡病院50件 ・治験等収益 29百万円 	3	3	<p>○令和3年度から病院機構本部に両病院の治療・臨床研究を一元管理する臨床研究推進センターを移管し、治験等の推進に取り組むなど年度計画を順調に実施している。</p> <p>・治験等実施件数は、 [医療センター R1:109件→R2:181件→R3:286件→R4:183件、 八幡病院 R1:31件→R2:21件→R3:54件→R4:50件]、</p> <p>・治験等収益は、 [R1:34百万円→R2:46百万円→R3:28百万円→R4:29百万円] で、実施件数及び収益は伸びていないため、評価「3」とした。</p>															
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保																			
(1) 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ●外部講師やeラーニングを活用した接遇研修を実施。 ●セル看護方式やPNSの導入に向けたマニュアル改定やモデル病棟での試行実施し、評価・改善。 ●院内のレイアウト変更や設備等の整備により、受付・診察の待ち時間の短縮。 ●医療センターの女性専用病棟:乳腺外科、産婦人科、泌尿器科にて円滑に運用。 ●院内における連携機能やベッドコントロール機能の強化など、入退院支援の機能強化。 ・医療センターではベッドコントロール室を開設、令和5年度に患者支援センターの大幅拡大に向けてプラン策定。 ・八幡病院では退院支援基準を策定しマニュアルを改訂。 ●広報誌やホームページで診療内容や治療実績等の情報提供、ホームページは随時見直しを実施。 ●診療内容等を広く発信するため、各種ソーシャルメディアを活用、ユーチューブで市民公開講座を配信するなど、情報発信に努めた。 <table border="0" data-bbox="489 1696 1884 1843"> <tr> <td></td> <td>(医療センター)</td> <td>(八幡病院)</td> </tr> <tr> <td>・接遇研修回数</td> <td>13回</td> <td>7回</td> </tr> <tr> <td>・研修参加延人数</td> <td>282人</td> <td>282人</td> </tr> <tr> <td>・患者満足度調査結果</td> <td>入院:4.1点 外来:3.8点</td> <td>入院:4.3点 外来4.1点</td> </tr> <tr> <td>・広報誌等発行回数</td> <td>4回</td> <td>14回</td> </tr> </table>		(医療センター)	(八幡病院)	・接遇研修回数	13回	7回	・研修参加延人数	282人	282人	・患者満足度調査結果	入院:4.1点 外来:3.8点	入院:4.3点 外来4.1点	・広報誌等発行回数	4回	14回	3	3	<p>○院内における連携機能やベッドコントロール機能など、入退院支援の機能強化を行った。患者サービスにおいては、待ち時間短縮等への取り組みを行い、満足度調査は5段階評価で概ね4点以上を維持している。新型コロナウイルス感染防止の観点から市民公開講座はほとんど開催されていないが、ソーシャルメディアを活用した積極的な情報発信を行うなど広報の充実を図り、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>
	(医療センター)	(八幡病院)																	
・接遇研修回数	13回	7回																	
・研修参加延人数	282人	282人																	
・患者満足度調査結果	入院:4.1点 外来:3.8点	入院:4.3点 外来4.1点																	
・広報誌等発行回数	4回	14回																	

項目	令和4年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント																					
(2) 地域医療機関等との連携	<p>●地域のニーズや役割把握のため、医療機関へのヒアリングやアンケートを実施。 ●地域医療機関との連携強化のため、紹介実績データの整理、PRツールの拡充、ヒアリングやアンケートなど、院内の営業戦略を検討するチームが中心となり、取組みを推進。医療センターでは、地域医療機関を対象とした医療連携の会を開催。 ●地域医療機関との信頼関係構築による紹介率・逆紹介率の向上。 ●新たに制度が始まる紹介受診重点医療機関の認定に向けて、医療センターでは、外来機能報告等の必要な作業を実施。 ●かかりつけ医に対する支援充実に向けて、紹介患者の優先的な対応や医療従事者向けの研修会を開催。 ●医療提供機能の相互支援(医療センターと八幡病院)の充実に向けて、多職種における人事交流。 ●令和4年12月に連携推進連絡会議を立ち上げ、各病院の専門分野における相互患者紹介を一層推進。</p> <table border="1" data-bbox="474 462 1187 672"> <thead> <tr> <th></th> <th>(医療センター)</th> <th>(八幡病院)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・紹介率</td> <td>85.1%</td> <td>78.7%</td> </tr> <tr> <td>・逆紹介率</td> <td>88.5%</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>・共同利用件数(高額医療機器)</td> <td>1,340件</td> <td>698件</td> </tr> <tr> <td>・共同利用件数(開放病床)</td> <td>63件</td> <td>19件</td> </tr> <tr> <td>・地域医療従事者研修実施回数</td> <td>10回</td> <td>26回</td> </tr> <tr> <td>・登録医療機関件数</td> <td>579件</td> <td>250件</td> </tr> </tbody> </table>		(医療センター)	(八幡病院)	・紹介率	85.1%	78.7%	・逆紹介率	88.5%	94.7%	・共同利用件数(高額医療機器)	1,340件	698件	・共同利用件数(開放病床)	63件	19件	・地域医療従事者研修実施回数	10回	26回	・登録医療機関件数	579件	250件	4	4	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中、可能な限り地域医療機関等との連携に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>・紹介患者数は、医療センターで増加、 [医療センター R1:10,613件→R2:9,103件→R3:10,317件→R4:10,511件、 八幡病院 R1: 6,561件→R2:5,903件→R3:6,889件→R4:6,791件]</p> <p>・紹介率は、医療センターで向上、 [医療センターR1:85.2%→R2:85.1%→R3:84.1%→R4:85.1%、 八幡病院 R1:63.6%→R2:77.0%→R3:80.2%→R4:78.7%]</p> <p>・逆紹介率は、両病院とも低下しているものの、高い水準を維持している。 [医療センターR1:81.3%→R2: 96.2%→R3:95.3%→R4:88.5%、 八幡病院 R1:82.3%→R2:110.0%→R3:96.9%→R4:94.7%]</p> <p>○医療センターと八幡病院の連携も進んでいることから、評価「4」とした。</p>
	(医療センター)	(八幡病院)																							
・紹介率	85.1%	78.7%																							
・逆紹介率	88.5%	94.7%																							
・共同利用件数(高額医療機器)	1,340件	698件																							
・共同利用件数(開放病床)	63件	19件																							
・地域医療従事者研修実施回数	10回	26回																							
・登録医療機関件数	579件	250件																							
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																									
1 収入増加・確保対策																									
(1) 病床利用率の向上	<p>●目標数値の設定、達成状況の確認や原因分析など、目標管理の徹底。 ●新型コロナ患者の増減に合わせて一般病床を増減させるなど、柔軟な見直しを実施。 ●病床稼働率の向上に向けて、各病院において、ベッドコントロールの効率化や入退院支援体制の充実に取り組んだ。 ●救急患者の積極的な受入れや体制強化。 <医療センター>救急車受入件数2,000件を目標として順次受入体制を強化し、目標件数を達成(2,143件)。地域の診療所との機能分化を進めるため、令和3年度に外来予約センターを開設、原則予約制や二次検診・個人紹介予約を継続。 <八幡病院>市内及び市内近郊の消防署や地域の医療機関等への訪問を行い連携体制を強化、積極的な救急受入を実施し、目標件数3,600件を達成(4,334件)。</p> <table border="1" data-bbox="474 1050 1335 1218"> <thead> <tr> <th></th> <th>(医療センター)</th> <th>(八幡病院)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・病床利用率(全体)</td> <td>72.3%</td> <td>68.1%</td> </tr> <tr> <td>・病床利用率(感染症・周産期除く)</td> <td>87.8%</td> <td>-----</td> </tr> <tr> <td>・外来患者数</td> <td>248,041人</td> <td>104,810人</td> </tr> <tr> <td>・入院患者数</td> <td>137,763人</td> <td>77,525人</td> </tr> <tr> <td>・手術件数</td> <td>3,674件</td> <td>2,037件</td> </tr> </tbody> </table>		(医療センター)	(八幡病院)	・病床利用率(全体)	72.3%	68.1%	・病床利用率(感染症・周産期除く)	87.8%	-----	・外来患者数	248,041人	104,810人	・入院患者数	137,763人	77,525人	・手術件数	3,674件	2,037件	3	3	<p>○ベッドコントロールの効率化など、利用率向上に向けた取り組みを行っているものの、新型コロナウイルス感染症の影響による患者減少で病床利用率は横ばいの状況である。 [医療センターR1:80.6%→R2:69.3%→R3:73.1%→R4:72.3%、 八幡病院 R1:80.8%→R2:64.1%→R3:67.1%→R4:68.1%]</p> <p>○病床利用率向上及び患者確保に向け、救急患者の積極的な受入れや体制強化に努めていることから、評価「3」とした。</p> <p>○新型コロナウイルス感染状況の変化を踏まえ、病床利用率のさらなる向上への取り組みにより、目標達成できるよう期待する。</p>			
	(医療センター)	(八幡病院)																							
・病床利用率(全体)	72.3%	68.1%																							
・病床利用率(感染症・周産期除く)	87.8%	-----																							
・外来患者数	248,041人	104,810人																							
・入院患者数	137,763人	77,525人																							
・手術件数	3,674件	2,037件																							
(2) 適切な診療報酬の確保	<p>●診療報酬制度や医療事務等の専門的知識や経験を有する人材を中心にプロパー職員を採用。 ●新規採用職員研修や階層別研修を実施したほか、各病院において院内教育やWeb研修受講を推進。 ●令和4年度の診療報酬改定にかかる新施設基準の取得へ向け、両病院において関係部門が連携して適切に対応。 ●診療報酬請求に精通した職員の確保・育成、査定結果の分析や対策に関する勉強会を開催。 ●施設基準の積極的な取得、医学管理科・リハビリテーション科の算定率向上に努め加算による増収。</p> <p><医療センター> ・地域医療体制確保加算など、新たに26件の施設基準を届出。 ・加算による増収額は、前年比+2.4億円(独法化後の累計は+5.7億円)。 <八幡病院> ・重症患者初期支援充実加算など、新たに34件の施設基準を届出。 ・加算による増収額は、前年比+1.1億円(独法化後の累計は+4.1億円)。 ●未収金の発生防止に向けた既存の対策を徹底するとともに、弁護士委託など新たな未収金回収策の導入に向け検討。</p> <table border="1" data-bbox="474 1680 1187 1806"> <thead> <tr> <th></th> <th>(医療センター)</th> <th>(八幡病院)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・市派遣職員比率</td> <td>25.8%</td> <td>29.6%</td> </tr> <tr> <td>・査定減比率</td> <td>0.39%</td> <td>0.35%</td> </tr> <tr> <td>・医療費徴収率</td> <td>99.7%</td> <td>99.6%</td> </tr> </tbody> </table>		(医療センター)	(八幡病院)	・市派遣職員比率	25.8%	29.6%	・査定減比率	0.39%	0.35%	・医療費徴収率	99.7%	99.6%	4	4	<p>○適切な診療報酬の確保に向け、専門的知識や経験を有する人材の採用など、年度計画に基づいた取り組みを順調に実施している。</p> <p>○その成果として、新たな施設基準の届出 [医療センター26件、八幡病院34件]で、加算による増収は、両病院合計で前年比3.5億円にのぼっていることは評価できる。</p> <p>また、市派遣職員比率は低下 [医療センターR1:65.5%→R2:45.5%→R3:40.7%→R4:25.8%、 八幡病院 R1:87.5%→R2:66.6%→R3:46.2%→R4:29.6%]</p> <p>・査定減比率は低水準を維持 [医療センターR1:0.75%→R2:0.73%→R3:0.43%→R4:0.39%、 八幡病院 R1:0.46%→R2:0.33%→R3:0.33%→R4:0.35%]</p> <p>・医療費徴収率は高水準を維持 [医療センターR1:99.7%→R2:99.6%→R3:99.7%→R4:99.7%、 八幡病院 R1:99.7%→R2:99.7%→R3:99.7%→R4:99.6%]</p> <p>と成果を上げているため、評価「4」とした。</p>									
	(医療センター)	(八幡病院)																							
・市派遣職員比率	25.8%	29.6%																							
・査定減比率	0.39%	0.35%																							
・医療費徴収率	99.7%	99.6%																							

項目	令和4年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
2 経費節減・抑制対策				
(1) コスト節減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●調達部門の専任職員が中心となり医薬品や診療材料の調達コスト削減。 ●機器購入時の保守複数年一括契約のほか、損害保険の活用など、保守金額の削減に向けて選択肢の幅を広げた。 ●生化学・免疫機器のリースについて一括契約に見直し、削減効果額は約1.7億円。 ●医薬品や診療材料の調達について、全国規模の共同購入組織への参画を継続、個別の価格交渉を徹底。 ●後発医薬品について、診療報酬の加算が得られる採用率80%を維持できるよう、切換えを随時実施。 ・後発医薬品採用率 医療センター92.9% 八幡病院90.4%	4	4	○調達部門への専任職員を増員し、契約制度や業務委託の見直しなど、経費縮減への取組みが進んでいることは評価できる。後発医薬品採用率について、医療センターは92.9%、八幡病院は90.4%で、令和5年度の目標値90.0%を達成していることから、評価「4」とした。
(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備	<ul style="list-style-type: none"> ●各病院が保有する医療機器を有効活用するため、稼働状況を把握、必要に応じて共同利用や移設を検討。八幡病院から医療センターに細菌検査器・脳波計を移設。 ●各病院の臨床工学課において機器の中央管理を行うとともに、一部修繕の内製化を実施。 ●医療機器の新規導入・更新については、令和3年度に整理した高額機器の更新予定に基づき予算を確保、今後購入計画を策定予定。 ●新たに購入する医療機器等については、機構全体で情報共有し、可能な限り両病院での規格統一を検討する仕組みを構築。 ●令和10年度に両病院の電子カルテ共通化の方針の下、令和5年度の医療センター更新に向けて中長期的な費用対効果等を考慮しつつ検討。 	3	3	○医療機器等の稼働状況を把握し、両病院間での共同利用検討や移設を実施するなど、積極的に有効活用を行っている。電子カルテの共通化に向けた取り組みや医療機器等の規格統一化への検討など、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
3 自立的な業務運営体制の構築				
(1) マネジメント体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ●機構幹部職員で構成する経営本部会議を毎月開催、令和4年度からは経営戦略会議と統合し、病院経営に関する重要事項や経営状況の情報共有、経営再建方針に基づく取組みの進捗管理を行った。 ●年度計画掲載事業等は、工程表を作成して進捗を管理したほか、月次決算によって毎月の目標達成状況等を情報共有。 ●事務部門の体制強化に向けて、病院経営に精通した民間人材を登用、医療経営コンサルタントを活用。 ●機構本部広報担当ラインと両病院が連携し、これまでの実績・取組みを基にした集患につながる広報戦略を検討。 ●理事長・院長等による部門別の経営ヒアリングを実施。 	4	4	○幹部職員で構成する「経営本部会議」を毎月開催し、病院経営状況の管理体制を強化し、毎月の目標管理と要因分析など経営課題に迅速に対応するための取組みが推進されていることは評価できる。 ○理事長のリーダーシップの下、主体的かつ機動的な意思決定システムが構築され、マネジメント体制を確立していることから、評価「4」とした。
(2) 職員の経営意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●職員向け広報誌の発行や経営状況説明会を開催。 ●令和6年度から始まる医師の働き方改革に向け、外部講師を招いた講演会を実施。 ●診療科別ヒアリングや経営状況説明会を実施、職員の意見や提案を聴取するための取り組みを実施。 	3	3	○職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催、働き方改革に関する講演会の実施など、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
(3) 法令・行動規範の遵守等	<ul style="list-style-type: none"> ●法令・行動規範の遵守に向けて、内部規定の運用や職員研修を実施。 ●ハラスメント対策専門官による相談や弁護士による外部相談を受けるとともに、職員向けの啓発や研修を実施。 ●不正防止対策に向けて、不祥事防止・ハラスメント研修を実施、コンプライアンス徹底のため法人車管理規程を策定。 ●令和5年度からの個人情報保護法の地方自治体等への適用拡大に対応して個人情報保護規程等を改正。サイバー攻撃に備え、サイバーセキュリティ保険に加入。 	3	3	○内部規定の整備をはじめ、法令・行動規範遵守のための研修を実施しているほか、セキュリティポリシーの運用やサイバーセキュリティ保険への加入など、診療情報保護対策に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。 ○不祥事防止に向け、引き続き内部統制の強化を期待する。
4 職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●全職種の職員で構成する「働き方改革研究会」の提言(令和元年度)を踏まえ、年度計画に基づく取組みを進めた。 ●医療スタッフの負担軽減のため、医師事務作業補助者及び病棟クラーク配置。 ●手当の拡充のほか、看護職の変則2交代などの柔軟な勤務形態導入に向けた検討を実施。 ●医師に、診療実績などの病院経営に対する貢献度を評価し、評価結果を給与に反映させるインセンティブ制度を令和3年度に導入し、運用。 ●職員の役職や習熟度に応じ、新規採用職員研修や階層別研修を実施。 ・看護師離職率 医療センター8.1% 八幡病院8.8%	4	4	○「働き方改革研究会」の提言を踏まえ、医師・看護師等の負担軽減や手当の拡充、医師のインセンティブ制度の運用など、長く働き続けることができる職場環境づくりに積極的に取り組んでいることは評価できる。 ○看護師の離職率については、医療センター8.1%、八幡病院8.8%と低水準を維持しているほか、柔軟な勤務形態の導入に向けた検討や各種研修実施など、職場環境の充実が図られていることから、評価「4」とした。

項目	令和4年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置				
1 財務基盤の安定化				
ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ●月次決算等による経営情報の把握、部門別の課題の分析、経営課題、経営情報の共有。 ●工程表作成による進捗管理、毎月の目標達成状況等を情報共有。 ●目標達成に対するインセンティブとして、診療実績などの病院経営に対する貢献度を評価し、評価結果を給与に反映させるインセンティブ制度を令和3年度から医師に導入し、運用。 	3	3	<p>○効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営情報の把握や目標管理による手法の導入、経営再建方針に基づく取り組みの進捗状況等の情報共有を実施するなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>○令和5年度についても、財政基盤の安定化に向け経営課題を明確にし、中期計画や年度計画の取り組みを着実に進める必要がある。</p>
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ●国・県からの新型コロナウイルス補助金や、市からの運営費負担金により、3期連続で営業収支及び経常収支の黒字化を実現。 ●経営再建方針に基づき、地域連携や救急による患者増、加算による単価増などの収益増加のほか、医薬品・診療材料・医療機器等の価格削減、委託の見直しなどの費用削減に取り組み、経営体質の改善に努めた。 ・営業収支 14.6億円(予算比+2.9億円) ・経常収支 15.4億円(予算比+2.9億円) ・営業収支比率 法人全体104.7% 医療センター106.0% 八幡病院108.2% ・経常収支比率 法人全体105.0% 医療センター106.3% 八幡病院108.2% 	3	3	<p>○営業収支及び経常収支の黒字化は達成できているが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいため、評価「3」とした。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の廃止を見据えて、引き続き、自立的な経営に向けた体質改善を進めていく必要がある。</p>
ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスに関する国・県の補助制度活用と独自の経営改善による、営業収支及び経常収支及びの黒字化に伴い、単年資金(実質)収支がプラスになるとともに、年度末資金剰余も増加。 ・単年度資金収支 20.8億円(予算比+9.7億円) ・年度末資金剰余 66.3億円(予算比+9.7億円) 	3	3	<p>○新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいが、単年度資金収支は黒字で、年度末資金剰余も増加したことから、評価「3」とした。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の廃止を見据えて、引き続き、自立的な経営に向けた体質改善を進めていく必要がある。</p>
2 運営費負担金のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ●市からの運営費交付金が国の基準に基づいて適切に交付されるよう、市と協議。 ・令和4年度の運営費負担金の実績 総額 29.7億円 (内訳) ・感染症医療 1.3億円 ・周産期医療 5.3億円 ・小児救急を含む救急医療 14.8億円 ・看護師養成費 0.7億円 ・院内保育所運営費 0.4億円 ・企業債元利償還金 7.2億円 ・基礎年金拠出金 == = 	3	3	<p>○運営費負担金を適切に執行していることから、評価「3」とした。</p>
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置				
1 看護専門学校の運営	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床看護及び教育の質の向上に向けて、看護教育人材の確保、教育環境の整備、学習教材の充実などの取組みを進めた。 ●学校施設・設備・教材を機構本部・医療センターに貸し出したほか、オープンキャンパスを実施。 ●卒業生の市内就職率の向上に向けて就職説明会等での働きかけや、卒業生へのフォローアップとして個別相談対応を実施。 ●実費負担であった「実習費」を教材や消耗品の費用も加えた定額の「実習関連費」に改め、令和4年度入学生から徴収開始。 ●卒業生の市内就職率向上。 ・卒業生の市内就職率 90.2% 	3	3	<p>○年度計画を順調に実施し、卒業生の市内就職率が90.2%と高い水準を維持している。地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ効率的な運営を行っていることから、評価「3」とした。</p>
2 施設・整備の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> ●医療センターの老朽化対策等について、令和3年度に策定した基本方針や設備改修計画に基づき、令和4年度予定分を適切に実施。 ●医療センターの将来的なリニューアルに向けて、現地リニューアルする場合の工程・工期・費用・その他懸案事項等の基礎調査を機構独自で実施。 	3	3	<p>○医療センターの老朽化対策の基本方針と設備改修計画を策定し、老朽化対策を計画的に実施するなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>
3 市政への協力	<ul style="list-style-type: none"> ●市が進める保健・医療施策について積極的な役割を果たすため、組織トップから事務レベルまで様々な階層において、緊密に連携。 ●新型コロナウイルス対策について、市との緊密な連携の下、市内医療機関の中心的な役割を果たした。 ●かかりつけ患者に対するワクチン接種のほか、集団接種への医師・看護師の派遣を実施。 ●市の要請に応じて、大規模大会における選手感染時や北九州空港検疫でコロナ陽性となった患者の受入体制を構築。 	5	5	<p>○新型コロナウイルス感染症対策では、市からの要請に基づき、市との連携の下、積極的な対応を行い、市内医療機関の中心的な役割を担ったことから、評価「5」とした。</p>